

科学博物館ニュース速報

No.15 October 1, 2014

第15号 2014年10月1日

3年目に入る科学博物館

この10月で科学博物館はリニューアルオープン2周年を無事に迎えることができました。

思い返せば、2年前の平成24年10月にリニューアルオープン記念式典を盛大に挙げて以後、多くの方々に博物館に与していただきました。学長をはじめとする大学執行部、大学本部関係者、農工両学部の教職員、そして農工大の学生の皆さん、さらに繊維技術研究会や博物館友の会のボランティアの皆さんなど、多くの皆様のご理解と支えがあって初めての今の博物館があると思っています。

その皆様方の支えが、数字となって表れたのが、入館者の図です。この図は、平成24年10月にリニューアルオープンして以後の、月ごとの入館者数および積算入館者数の変化を表しています。多いとまで月に3,000人を超える入館者がありました。友の会サークル作品展のある2月と科学技術展のある11月が3,000名前後と圧倒しています。また、先月(9月)も例年になく3,000名近い入場者数でしたが、これはキャンパス内で開催された学会の発表会場の一部として博物館が使われたためです。積算入館者数をみますと、2年間で40,161名となり、年平均20,080名となったことがわかります。リニューアル前の年間入場者数が13,000名弱でしたので、7,000名以上増加しました。

ところで、多くの博物館では常設展示以外に様々な企画展や特別展などを催してそれぞれの博物館のミッションの実現と集客に努めています。科学博物館でも、リニューアル後に様々な展示会を開催して大学博物館としての使命を果たし入館者の増加策を打ち出しています。常設展示以外の企画ものにはいろいろありますが、科学博物館では以下のような分類をしています。

- 1) 企画展：学内の教職員が実行委員会を組織化して展示内容を企画し、科学博物館が展示品の製作や広報等を補助する展示
- 2) 特別展：科学博物館外の組織が本館のミッションに沿った企画について提案し、博物館運営委員会で承認を受けた展示
- 3) ミニ企画展：科学博物館および学内に保存されている学術上の資料を博物館学芸員が発掘し、それをういて企画した展示

リニューアルオープン後の2年間に実現した展示の一覧を表に示します。企画展はこれまでに5回開催していますが、そのうち工学部広報戦略委員会提案が2

件、全学公募型が3件となっています。後者については教育研究振興財団の資金援助を使って展示経費を賄っています。来年度の公募型企画展の募集を近日中に行いますので、素晴らしい企画のご提案をお願いします。

9月末まで開催されていた「復興支援バイオ肥料プロジェクト」は、大型プロジェクトの研究成果を公表するために提案・企画された初のケースで、多くの一般市民および関連研究者が来館され、好評を博しました。近年の大型研究費の申請時には研究の成果をどのように社会に公表するか、申請書に書くことが求められていますが、その際には、ホームページだけでなく科学博物館での企画展示の実施をぜひご記入ください。科学博物館のような展示を専門とする施設および教職員を擁している大学は非常に稀で、申請書審査の大きなアドバンテージになることが考えられます。

特別展は6件開催しましたが、そのうち友の会サークル作品展は30年以上続けられており、しかも来館者も2000人を超える企画となっています。これは、友の会サークルメンバーが1年間の活動の成

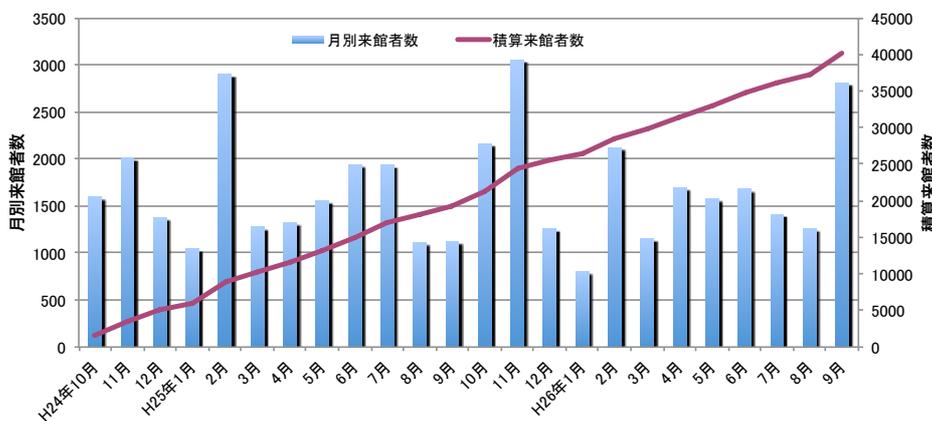
果をまとめて発表するもので、展示品の完成度が高く、毎年来られる固定客も多数おられるとのことです。

ミニ企画展では、博物館学芸員が博物館や学内の学術資料を調査研究した成果を展示していますが、表のように農工両学部の関係者からいただいた情報とご協力をもとに企画立案して展示パネルを制作しています。今後も、学内に埋もれている貴重な学術資料の情報を博物館学芸員にご提供ください。

リニューアル後3年目に入り、科学博物館として次のステップに進むためのグランドデザインを策定中です。その中には、リニューアル時に策定された博物館の4つのミッションの点検と改善があります。これについては、博物館運営委員会内にWGを設けて検討していきたいと考えています。また、喫緊の課題としては博物館収蔵資料のデータベース構築作業、国際化への対応、学生の科学コミュニケーション力養成への貢献などが考えられます。

今後も教職員の皆様と共に歩んでいく博物館にご期待ください。

(科学博物館館長 梅田倫弘)



| 種類 | 開始日 | 終了日 | 展示会名 | 担当者 |
|-------|-----------|-----------|-----------------------------------|-------|
| 企画展 | H24.11.10 | H25.3.2 | 農工大発イノベーション・シーズ展—人と環境の未来を拓くテクノロジー | 高木 |
| | H25.6.1 | H25.9.28 | 未来を照らす光の科学 | 梅田 |
| | H26.2.11 | H26.4.26 | 衣料から医療へ—シルクから創る人工血管— | 高木 |
| | H26.5.27 | H26.7.26 | 川島浩の写真に見る山の恵みと人々の暮らし | 斎藤 |
| | H26.8.5 | H26.9.27 | 東京農工大学福島農業復興支援バイオ肥料プロジェクト | 斎藤 |
| | H25.2.8 | H25.2.14 | 友の会サークル作品展 | 高木 |
| 特別展 | H25.3.16 | H25.4.13 | シルクロードからの贈り物—ウズベキスタンにおける養蚕技術交流— | 高木 |
| | H25.10.25 | H25.10.27 | 東京シルク展 | 高木 |
| | H25.11.8 | H25.11.10 | 東京農工大学科学技術展 | |
| | H26.2.14 | H26.2.20 | 友の会サークル作品展 | 高木 |
| ミニ企画展 | H26.9.16 | H26.10.25 | 東京農工大学創基140周年記念展 | 飯野 |
| | H25.7.13 | H25.10.5 | コンピュータコレクション | 高木 |
| | H26.3.29 | H26.6.30 | 分館コレクション畜力農機具展 | 高木・斎藤 |
| | H26.6.10 | H26.8.8 | 大野乾の世界—生物進化の謎に迫る仮説:遺伝子倍加による大進化 | 斎藤 |

特別展
東京農工大学
創基140周年記念展

会期：9月15日(火)～10月25日(土)



農学部と工学部の前身は、それぞれ1874年の農事修学場および蚕業試験掛の設置まで遡ることができます。今年2014年は、奇しくも両学部の前身が軌を一にして設置されてからちょうど140年の節目の年に当たります。これを記念して、当博物館では本学140年の歴史を写真で振り返る特別展を実施しております。9月17日の開始以降、卒業生・修了生のみならず多くの方にご覧頂いております。思い出話に華が咲くような、キャンパスの何気ない風景を中心に写真を集めています。ぜひ、ご家族・ご友人とご来館ください。本展は10月25日(土)まで実施予定です。

さて、本展の実施にあたり、多くの関係者の方々から写真をご提供いただきました。特に本学の同窓会からは、1000枚を超える多くの写真の提供をいただいております。もちろんそのすべてを展示するわけにはいかないので、多くの方々の思い出に残っていきそうな写真を一枚一枚選んでいきました。候補に残ったものの最終的に掲示されなかった写真は、会場入ってすぐのモニターで放映しています。農学部・工学部それぞれ200枚ほどの写真をスライドショーで見ることが出来ます。ぜひこちらも椅子に座ってゆっくりご鑑賞ください！

学生生活やキャンパスの風景以外にも、府中・小金井キャンパスの航空写真からそれぞれの変化を感じていただくコーナーも設けました。国土地理院のウェブサイトでは、全国の航空写真を戦前から時系列で探することができます。キャンパス内の風景が大きく変わる前後を中心に、両キャンパス6枚の写真を並べて掲示し、多くの方の思い出の風景を空から楽しんでいただければと思います。小金井キャンパスは1970年代に桑園が撤去され、鉄筋コンクリート造りの建物が一気にキャンパス内を占めるようになります。これは前身以来の伝統を持つ繊維工学から、より広く工学一般へと扱う分野がシフトしたことを表しており、産業構造の変遷という時代の要請をキャンパスの風景から感じ取ることができます。逆に府中キャンパスは、堂々とした本館をのぞむ正門からの風景は80年近く変わっておらず、世代間で共有される象徴的な風景になっています。この思い出は今後も受け継がれていくことでしょう。

写真展でも、現在を含めて本館前の風景をいくつか取り上げております。学び舎の来し方、そしてこれからのぜひ思いを馳せていただければ幸いです。
 (科学博物館学芸員 飯野孝浩)

イベント開催報告
夏休み子ども体験教室

実施日：8月19日(火) 8月20日(水)

のべ対応者数：

子ども：369名 大人：116名

毎年恒例の夏休み子ども体験教室を、今年は8月19日、8月20日の2日間にわたって実施しました。写真のような友の会による体験型のイベントを中心に、今回は繊維技術研究会による折り紙教室や、学生ガイド団体ミュージックによるガイドツアー、旅と鉄道研究会による鉄道模型の展示もあり、楽しみの多い2日間になりました。参加者は大学の近隣の方が多く、地域の方に当館に親しんでいただくよい機会となりました。

(科学博物館学芸員 齊藤有里加)



企画展開催報告
東京農工大学福島農業復興支援
バイオ肥料プロジェクト

本会期：平成26年8月5日(火)～9月27日(土)【来館者3826名】

企画展東京農工大学福島農業復興支援バイオ肥料プロジェクトが9月27日をもって無事終了いたしました。本展示での重点は、本研究が福島県二本松市東和地区の農家の方とタッグを組んでいる点です。多くの学生が調査に関わり、大切な農地をお借りして泊まり込みで作業をしています。農家の方の声を聴き、研究に取り組むことは、学生の将来に貴重な財産となると感じました。農学部では大学の研究資源を活用し、放射性セシウムを積極的に取り込む植物の活用、逆に取り込まない農作物品種の選定、里山での放射性セシウムの動態を把握する研究、福島産農作物の市場調査など、多角的にアプローチをしています。また授業では、福島へ赴き現地を見学、地域の農業の復興についてのレポートを課題とするなど、学生の育成にも積極的に取り組んでいます。

夏休み中の開催であり、期間中に土壤分野の学会があったこともあり、子ども連れから研究者まで多くの方にご覧いただきました。ご見学いただいた方からは「報道ではわからない地道な研究があることを実感した」「遠隔地でもこのような形での支援ができることを心強く感じた」などのお言葉をいただきました。地域の方に本学の研究と社会とのつながり

について感じていただくきっかけとなりました。

本展示は11月に府中キャンパスの科学技術展でもご覧いただく予定です。

(科学博物館学芸員 齊藤有里加)



博物館日誌

企画展「東京農工大学福島農業復興支援バイオ肥料プロジェクト」が、8/5～9/27の期間で開催されました。「福島で農園をしている者ですが、企画展を見に、土曜日に行き見て見ることが出来ますか？」というお問い合わせや、「そのプロジェクトの先生とコンタクトを取るにはどうしたら良いでしょうか？」等々のご質問がありました(9/11の日本土壤肥料学会東京大会 市民公開シンポジウムをご案内しました)。市民の皆さんの高い関心をうかがい知ることができました。

最近、福島の放射性セシウム汚染は首都圏ではあまり話題に上がらなくなっているように感じますが、この問題は何ら解決されておらず、福島で農業を営んでいる方々は相当お困りと思えます。東京農工大学が地域と一緒に放射線セシウム汚染から農業復興させるという取組みに胸が熱くなりました。

9月は団体見学及び授業の利用が多く、人の出入りが多いと蚊の出入りも多く、蚊取り線香に火をつけることが朝の日課となりました。

(科学博物館事務 北川和幸)

【10月・11月】
科学博物館活動カレンダー

★東京農工大学創基140周年記念特別展
 9月16日～10月25日

★子ども科学教室
 「カイコの繭から糸を繰ってみよう」
 10月4日(土)【応募終了】

11月：決まり次第お知らせします

★繊維技術研究会講演会【予約不要】

「横観繊維技術」
 10月21日10時～12時 福多健二氏

「SFアニメに見る現代天文学」
 11月15日13時～15時 講義棟L0033
 梅本智文氏(国立天文台准教授)
 飯野孝浩(当館特任助教)

★科学技術展
 11月7日～9日

「科学博物館ニュース速報」第15号

◆発行日 2014年10月1日

◆編集 科学博物館ニュース速報編集委員会
 齊藤有里加・飯野孝浩・北川和幸

◆発行 東京農工大学科学博物館

◆連絡先 kahaku@cc.tuat.ac.jp
 042-388-7163